

武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議（第 16 回） 議事要録

- 日 時 平成 30 年 8 月 23 日（木） 19 : 00 ~ 21 : 00
- 場 所 武蔵野市役所 111 会議室
- 出席者 委員 14 名、事務局 5 名
小澤（紀）委員長、鈴木（雅）副委員長、大沢委員、大谷委員、小澤（里）委員、上吉川委員、木村文委員、佐久間委員、塩澤委員、志賀委員、鈴木（圭）委員、田中委員、村井委員、木村浩委員
- 議事等 1 武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議検討のまとめ（案）について
2 武蔵野市エコプラザ（仮称）の整備に向けた市の基本的な考え方（案）の内容について
3 その他

1 武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議検討のまとめ（案）について

発言者	要旨
委員長	今日は「1 武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議検討のまとめ（案）について」、「2 武蔵野市エコプラザ（仮称）の整備に向けた市の基本的な考え方（案）の内容について」説明がある。まずは 1 から説明をしていただきたい。
委員	今日は特に「1 武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議検討のまとめ（案）」について、皆様から活発な意見をいただきたい。資料 1-2 については、前回の市民会議終了後に委員長と相談し、「本編」と「あゆみ編」に分けた。 —資料 1-1 「武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議検討のまとめ（案）修正版」について説明— エコプラザの理念について、構成の再検討の提案をいただいている。ホワイトボードにエコプラザの理念の現在の構成を示しているが、後ほど「リスペクト」や「市民参加」などの項目が「コンセプト」「エコプラザ（仮称）が目指すもの」「エコプラザ（仮称）の基礎にある考え方」「エコプラザ（仮称）の基本的な方向性」のどこに置くことがふさわしいか、議論いただきたい。
委員長	意見を共有するプロセスが重要であるため、活発に議論いただきたい。
委員	コンセプトのタイトルである「共創による未来に誇れる場づくり」よりもサブタイトルとして掲げている「みんなでつくろう！子どもたちに未来をつなぐエコプラザ」の方がずっとわかりやすく、これがコンセプトの方が良いと思った。 4つのキーワードは必要だろうか。「目指すもの」や「理念」や「方向性」などの見出しがたくさんあり、わかりにくいと感じる。一番大切なコンセプトを、

	<p>一番わかりやすくしたい。「共創による未来に誇れる場づくり」は、一つ一つの言葉をよく考えればわかるが、内容がすぐ理解できないため、タイトルを変えてはどうか。</p>
委員	<p>これまでの議論の中で「つなぐ」という言葉がキーワードになっていたと思うので、「つなぐ」という言葉がコンセプトになった方がわかりやすい。</p>
委員	<p>コンセプトの表現自体をわかりやすいものにするのが良い。また、4つあるキーワードを重要と捉えるならば、わかりやすい言葉にして、「基礎となる考え方」にキーワードの要素を入れ、整合性を取ると良い。</p>
委員	<p>委員の言うように、「みんなでつくろう！子どもたちに未来をつなぐエコプラザ」の方がわかりやすい。「未来に誇れる」というニュアンスが、「子どもたちに未来をつなぐ」という表現だけでは少し足りないので、例えば「子どもたちと人・地域と未来をつなぐ」などの文言を、基礎にある考え方や基本的な方向性にもう少し入れられないか。良い言葉が思い浮かばないので、もう少し考えたい。</p> <p>「エコプラザ（仮称）の基本的な方向性」が資料1-1の4ページにある図では一番下に記載されているが、どちらかといえば、「エコプラザ（仮称）が目指すもの」の上に近いと思うので、ここの位置を入れ替えてはどうか。「エコプラザ（仮称）の基礎にある考え方」を一番下とした方がわかりやすいと思う。「基本的な方向性」の「低炭素モデルの実現」も「SDGsの考え方」の中に含まれると思われる。SDGsの中に含まれるものの中でも、基本的な方向性などを特に中心に据えたいということが分かるように書ければより良い。</p>
委員長	<p>議論を重ね、皆さんの意見をまとめてこのようにまとめたが、これらは市民だけでつくるのではなく、事業者なども関わってくるものになる。説明としてこの4つのキーワードを出し、コンセプトはシンプルな方が良い。</p> <p>クリーンセンターの時にも、時間軸でA3用紙3枚にまとめてもらった。クリーンセンターがどうなっていくかという通し図をしっかりと理解してもらうことが、重要だったと思う。エコプラザの理念については、武蔵野市がずっと貫いてきた軸を明快にしたい。</p> <p>ただ、カタカナ用語が多いので、もう一度表現を考え直したい。例えば、メタボリズム・SDGs・コレクティブインパクトをとっても解釈が人によって異なる。なるべくカタカナ用語を用いずに、武蔵野らしい 방식을、一枚の絵に表すことが大切である。エコプラザの理念図だけで、武蔵野市が目指すべきものを表さないといけない。</p>
委員	<p>SDGsの扱いについてこのチャートの真ん中にくることに違和感を覚える。もともとSDGsはMDGsという途上国向けの問題解決のために国連が提唱した概念で、グローバル視点の課題解決のテーマである。今回エコプラザ</p>

	<p>で取り扱っているのが場づくりやまちづくり、地域力とある中で、それらの中央にこの言葉があることでの関係性の理解に悩まれる方がいるのではないか。</p>
委員長	<p>あえてここでSDGsという言葉を使うかどうかだが、持続可能な武蔵野づくりや持続可能な武蔵野の暮らしや地域づくりといった方が明快かもしれない。エコプラザには、啓発機能として質の高い学び合いの関係性をつくる場として機能することが求められる。</p>
委員	<p>武蔵野市の中でエコプラザがSDGsを推進していくための拠点であるならば理解がしやすい。</p>
委員長	<p>SDGsのゴール17項目が全部つながっていることを理解するのは難しい。一つのごみから海洋ごみの問題までつながるという見方もあるし、同じごみでもつくるのにエネルギーが必要となり、温暖化にもつながるなどいろいろな見方ができる。そのあたりのスタンスは、武蔵野市が築き上げてきたものだと思うので、しっかり示したい。</p>
委員	<p>図の中にはSDGsは載せず、他の場所にSDGsに貢献できるという内容を入れれば良い。また、「エコプラザの考え方」の中にあるカタカナ用語をすべて、ひらがなやわかりやすい言葉にしたい。例えば、リスペクトは歴史の継承、コレクティブインパクトは価値の共有などの言葉にすることができるとは思えない。メタボリズムは新陳代謝では分かりづらいので、成長や進化などにしてほしい。ゼロウェイストはごみゼロの方がわかりやすい。</p>
委員	<p>先ほど委員長からお話があったが、エコプラザは一般市民だけでなく、たくさんの方が関わる施設になる。目線をどこに置くかを絞らないと、まとめ方や表現方法が変わってくるのではないか。</p>
委員	<p>ここが一番基本的なものであるため、共通してやさしい言葉にした方が良い。</p>
委員	<p>誰が見てもわかるような言葉にすることは賛成である。エコプラザの理念の構成がまだ整理しきれていないので、わかりづらくなる部分はあると思う。</p> <p>また、市民向けの資料であるならば、文章はですます調にした方が良いのではないか。</p>
委員	<p>4つのキーワードをコンセプトの説明と捉えれば、あっても良いのではないかと思う。編集目線でいうと、最初にアウトプットやコンセプトを大きい字で記載して、4つのキーワードはそれを説明するように小さい字で記載をするような関係で良いのではないか。</p>
委員長	<p>市民や行政関係者が読む際に、この4つのキーワードを使ってコンセプトを説明すれば良いのではないか。</p>
委員	<p>私ならば、このタイトルの部分にある「共」、「創」、「子ども・未来」、「場」はゴシックにして、キーワードであるということが分かるように文字のポイン</p>

	ト数を上げて分かりやすくする。
委員長	<p>視覚的に訴えることも重要である。エコプラザの理念の構成は、後ほどホワイトボードの図を使って議論する。</p> <p>次に、「エコプラザ（仮称）が目指すもの」についての意見をいただきたい。この中にSDGsが入っており、説明の最後の文章が、「環境にやさしい魅力的な地域づくりを目指す」と記載されている。「やさしい」という曖昧な言葉は使わない方が良いのではないか。</p>
委員	「魅力的」もあいまいな言葉だと感じる。
委員長	持続可能な地域という言葉は全部載せるかどうか。
委員	持続可能な開発は固い言葉ではあるが、生きのびるためには行動をしなければいけないという強いメッセージ性が必要だと思う。ここでしっかりと示さないと、「目指すもの」というのがゆるくなってしまうと思う。
委員長	<p>1行目に国連の説明で使われている「誰一人取り残さない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現」を目指す国際的な目標であることが記載され、その下に「エコプラザ（仮称）では、これらSDGsの達成に貢献する事業を実施する」の後に「再生エネルギーの普及」以下の文章が続いている。このように、「環境にやさしい」や「魅力的な」などの言葉は入れずに、持続可能な地域づくりと表現し、SDGsに貢献しながら運営していくという記載した方が良いのではないか。</p> <p>「多様性と包摂性のある社会」という言葉は途上国だけでなく、武蔵野市にも当てはまるものである。今晚西日本の方々は眠れない夜を過ごしているかもしれない。私たちも自分たちの行動や生活様式が健康や福祉などいろいろなところに影響を及ぼしていることを考えなければいけない。コンセプトとSDGsどちらを先に説明した方が良いか。</p>
委員	<p>新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会で議論をした時に、低炭素モデルや地域力の向上やまちづくりの連携を進めることで、結果的にそれがごみの減量化につながるが、ごみ減量化を進めることで低炭素モデルや地域力の向上やまちづくりの連携へとつながるかという似た議論があった。</p> <p>「エコプラザ（仮称）の基本的な方向性」である4つの柱があり、この方向性に沿って事業を展開し、それが最終的にはSDGsの達成に貢献するとすれば、目標にSDGsを記載し、その下に方向性を書いてもあまり違和感はない。あとはその方向性に準じてどんな事業を展開するかということが大事である。</p> <p>先ほど委員がおっしゃったように、エコプラザで環境全般をテーマとして扱うと決めたことの重要性を考えると、SDGsの達成に向けて貢献する事業を実施するところで宣言しておくことは意味があることだと思う。構成をどうすれば良いかは私も悩んでいる。</p>

委員長	<p>地域で持続可能な武蔵野地域づくりということから、それを実現するためには再生エネルギーの普及や省エネ、循環型社会の実施などをやることによって、結果としてSDGsにも貢献することになるという方が、すんなりと市民にも入ると思う。</p>
委員	<p>絵の部分は上から下に向かうような一方通行の内容である。エコプラザの目指すものがあり、開発目標があり、そのためにいろいろな方向性があるが、場合によってはそれがまた循環しても良いということがわかるように、矢印の方向が循環して結果として目標ができたというような、元に戻るようなイメージがほしい。</p>
委員長	<p>立体的なイメージがほしい。</p>
委員	<p>SDGsの話に戻るが、私たちが取り組んでいるごみの減量の部門でも、世界でも、日本のSDGsの取り組みはかなり遅れている。昨年の国連G7で議論されており、日本はもっとイニシアチブをとらなければいけないといわれている。それに対し、東京都や国も、SDGsをとにかく掲げなければいけないということにかかりっきりになっている。</p>
委員長	<p>私は論理的にSDGsが始めにあるのではなく、このようなことをすれば、国連の提唱するSDGsに貢献できるという方が素直に読めると思う。</p> <p>全体の論理をもう一度じっくりと整理したい。</p>
委員	<p>そのように考えると、9ページの「(2) 評価、検証のあり方」とも関係する。これをどう評価するかはざっくりとしか書いていないが、実際にこの事業を検証しようとする、最初の「エコプラザ(仮称)が目指すもの」や「エコプラザ(仮称)の基本的な方向性」などを軸にして、どれだけその軸に対して効果があったかという話が前提である。簡単に言うと、一年間実施した事業によりSDGsの達成にどれだけ貢献できたかなどといった評価があり、そうした工夫が必要になる。</p> <p>SDGsの達成を目標にするというよりは、取り組み方としては基本的な方向性に沿って取り組むと整理をした上で、きちんとSDGsに対する影響を評価することが謳われていれば、先ほど委員長がおっしゃったように、武蔵野市らしいやり方で取り組んだ結果としてSDGsの目標達成に貢献するというような整理の仕方でも良いと思う。</p>
委員	<p>企業はSDGsに取り組まなければいけない状況になっている。そうしなければ評価されない、やるのが当たり前という状況になっている。当たり前のものをあえてここに目標として書くのか。</p> <p>もう1点、武蔵野市エコプラザ(仮称)検討市民会議検討のまとめ(案)から事業者が見えない印象がある。これを見て事業者が何を感じるのか。事業者にも何かを感じてもらわないといけないし、行動してもらわないといけない。</p>

	事業者への発信力が少し足りない。事業者に受け取ってもらうためにも、SDGsをあえて目標にするよりは、SDGsは当たり前であるというスタンスの資料としてまとめた方が良いのではないかと。
委員長	その辺りは検討市民会議検討のまとめ冒頭の委員長の言葉に書く。
委員	SDGsについては、「2030年に向けて世界が合意した持続可能な開発目標です」とし、事業の評価基準として書いても良いと思う。
委員長	学校現場は、プログラミングも、英語も学習しなければいけないなど、今大変であるが、ある小学校では、单元ごとにSDGsのマークを記載し、この单元でどの部分を学んでいるかを明示化している。
委員	SDGsの達成に貢献する事業の実施を謳っているのであれば、実施事業に対してSDGsのロゴマークを必ずつけるようにするなどしてはどうか。どの目標に関わるのか見えるようにすることもできる。
委員長	最終的にそうした事業の展開の仕方もあるが、全体のまとめの部分には入らない。
委員	エコプラザをどう使うか、どんなことをするか、参加したことによって個人や企業が触発され、最終的にはSDGsにつながるというような形になると少しわかりやすくなるのではないかと。細い血管が最終的には大きな力を生み出すように、小さなことからより良い社会になっていったというような評価の考え方の方が良いのではないかと。
委員	先ほど委員がおっしゃった「低炭素モデルの実現」「地域力の向上」「まちづくりとの連携」「生活・地域との接点」というのは、SDGsにつながる具体的なエコプラザが目指す方向だと思う。記載の仕方として、「エコプラザ（仮称）が目指すもの」をそのまま「エコプラザ（仮称）の基本的な方向性」の前提として入れてまとめてはどうか。 図中の「コンセプト」を一番上に持ってくるのではなく土台部分に入れ、土台の中に「リスペクト」「市民参加」などのエコプラザのスタンスとなるキーワードを入れ、方向性としてどのような活動をやりたいのかという部分に低炭素モデルの実現や地域力の向上といった方向性があり、さらにSDGsに貢献することを入れても良い。
委員長	ある小学校の先生たちで研修会をやった時は、概念と目標とを分けた。木にはいろいろな枝をつけられるが、やはりそれを支えるには根っこが大事であるということで、一本の木の絵を書いて根っこをしっかりと張らすと発表した学校があった。日本人の考え方の安定性としては、資料1-1の4ページのような円錐形が良いと思う。
委員	文章を読まなくても、一目見てエコプラザの概念が把握できるのであれば、そちらの方がわかりやすい。そのため、一番初めに図を持ってきた方が良いの

	ではないかと思った。
委員長	資料1-1の4、5ページについてはどうか。先ほど委員からカタカナ用語を直した方が良いという意見が挙がったが、その他に修正の意見はあるか。
委員	私もカタカナ用語は直した方が良いと思う。現存する漢字で全部を直すには無理があり、その部分がカタカナ用語になっている。いっそのこと新しい漢字をつくり、但し書きを併記してはどうか。現存の漢字にないから安易にカタカナ用語になるので、何かうまい漢字がつかれないか。今までの言葉だけでは発展できないと思う。
委員長	なるべくカタカナ用語を使わない方向で修正していくという総意でよろしいか。 それから「エコプラザ（仮称）の基本的な方向性」として、4つ記載されている。「(4)生活・地域との接点」の部分が修正されたがいかがか。
委員	「基本的な方向性」の部分の「(4)生活・地域との接点」について、中身の文章については「つながり」と記載されている。「接点」にするか「つながり」にするか、どちらかに統一した方が良いのではないか。
委員長	「つながり」の方が良い。
委員	資料2の6ページに「エコプラザ周辺エリアでいろいろな啓発事業モデルを試行し、それを市内全域に広げていく、という取り組み方は実践的だと思います」と記載している。この考え方が重要で、要はエコプラザは人を集めて何かをするセンターではないという意見だと思う。前提として、エコプラザの活動範囲が地域なのか、それとも市全域なのかという話とあわせて、もう少し整理する必要があると思う。
委員	エコプラザの活動エリアが市全域なのか限られたエリアの話なのかは気になっていた。必ずしもこの緑町3丁目にこだわらなくても良いという意見を提出したが、啓発活動はどこか場所を特定するものではない。啓発効果が一番高い場所や方法を考え、市の一部や特定の丁目、全市的などがあることを意識しておけば、市全体、地域などの言葉の使い分けがしやすくなる。啓発活動を実施する場所という意味では言葉を使い分けても良いのではないかと思った。
委員長	基本的には活動のエリアは緑町3丁目に限ったものではない。モデル的にエコプラザでやったり、市関連施設でやったりしても良い。例えば、私が過去実施した海ごみについて啓発するプログラムでは、旅行用のトランクの中に海ごみを詰め込んだり、魚の胃の写真で見せたりしたが、そうしたプログラムを、出張で実施しても良い。それはただ単に機能としてあり、全市めがけて実施すれば良だけで、モデル事業だけというものでもない。
委員	「この場でなければ」というものも当然あるとは思いますが、「何でもエコプラザで」ということでもない。

委員	<p>エコプラザだけで完結せずに地域とつながって水平展開をしていくというイメージは最初から持っていた。もちろん全市的な施設なので、エコプラザを全市民が利用するのは当然ではあるが、エコプラザからアウトリーチして地域に出ることも当然考えているし、地域で環境に関する行動をとっている人たちと連携して何か実施することも当然考えられる。</p> <p>そうした意味で、「(4)生活・地域との接点」の部分で、「基本的な方向性」の部分に設けたのは良い。それでこの意味が表現できているかどうかである。また、前回は地域という言葉だけだったので、「暮らし」という言葉をつけたのは良い。</p>
委員長	<p>次に6ページ以降の、「3 エコプラザ（仮称）の機能と各階の配置構成」に進みたい。このような修正でよろしいか。文章2行目の「育てる・育む」を、下の表の順番のとおり「育む・育てる」に変えた方が、違和感がないと思ったがいかがか。</p>
委員	<p>どう意味が違うかということだと思う。</p>
委員長	<p>教え込むのではなく、学校の先生も児童や生徒から学び、共感し、自分の行動を変容させるというようなプロセスがないと、このようなものは扱えないと私は思う。</p>
委員	<p>「育む」という言葉だけにすることはできないか。</p>
委員長	<p>一方から教えるだけだと理解できない人も出てきてしまうが、教えるというeducateの意味は、もともとはその人を持っているものを引き出すという意味である。両方あった方が良い。</p>
委員	<p>そうした話を聞いて入ると、「育てる」は他に対して教えることで、「育む」は自発的な育ちというように聞こえる。</p>
委員	<p>「育」という漢字が並ぶのが気になるのであれば、例えば「育む」と「支える」や「見守る」と「支える」にしてはどうか。そうすると意味がまた変わるのか。</p>
委員長	<p>「(2)学ぶ・学び合う」のような関係性を大事にしたい。</p>
委員	<p>「育む」をひらがなにしてはどうか。</p>
委員	<p>説明文では「育てる・育む・共感する」となっているが、下の図では「育む・育てる」となっているのはなぜか。</p>
委員	<p>委員長とも話したが、まずは共感をした上で、育み、育てるという考え方であり、「共感」は前提条件にある。「共感」という言葉をどこに入れれば良いのか考えている。</p>
委員	<p>「共感」が適切なのか。</p>
委員	<p>「共感」という言葉も入れていたが、内容が過多になるので取った。</p>
委員長	<p>活動を育てるという意味では「育てる」という言葉は入っていても良い。共</p>

	感じて育み、そして支え合って育てる、という順番であっても良い。
委員	「機能」の項目として並んでいるが、「共感する」という言葉はここに入るべきか。機能ではないのではないかな。
委員長	ここでは取っても良いと思う。
委員	他の部分で入れてはどうか。
委員	「育む」はいろいろな媒体では、ひらがなで出てくることが多く、そのイメージが強い。読める人は読めると思うが、普通の市民の方は読めない方も多いと思う。行政の文章ではやさしいイメージにした方が良いのではないかな。
委員	プラットホームなどをそのまま再利用し、建物を残すことを伝えるために、ただ情報を伝えるのではなく、体感するや感じるなどの要素を入れた方が、「ここを壊さない」というインパクトが強く伝わるのではないかな。子どもにとってもその空間を感じることは良いと思う。
委員長	その辺りは、イギリスにある子ども向けのアースセンターという施設に行った際に感じた。13世紀のお城があり、未来の子どもというコンセプトがあったが、入口の門に一直線状の太陽光パネルが並んでいた。私はその空間で、過去に学び、今を知り、未来からどうあったら良いかを学ぶ、ということを感じた。
委員	「共感する」を取り、「感じる」を独立して入れてはどうか。
委員長	空間を感じる、ということになる。7、8ページの部分はいかがか。イメージ図や写真が載っている。
委員	イメージ写真内に文字は必要か。
委員	サンプルであることを強調するため、入れている。
委員	イメージ写真を入れすぎると、このイメージで出来上がるような印象を受ける。観光地もイメージ写真を載せない方が感動も増すとも言われているので、イメージをつくりすぎているように思える。
委員	せんだい環境学習館の写真はいらないのではないかな。
委員	懸念される点としては、類似施設を並べると、同じような施設かと思われる。エコプラザは新たな施設で、委員の意見のとおり、プラットホームをわざわざ残すような新しい試みを行う施設である。何もないと何の施設かがわからないが、何かのイメージに引っ張られるのは良くない。
委員長	「クリーンセンターとあそぶ」という言葉は適切か。「クリーンセンターと学ぶ」などの方が良いのではないかな。
委員	これはイベント名で、この写真だけクリーンセンターのものだが、確かにわかりづらく、勘違いする。
委員	記載方法については考える。
委員	アーカイブという言葉については、私の自治会のメンバーからも、「意味はわ

	<p>かるが、もう少しわかりやすい言葉にできないか」という意見が挙げられた。大分一般的な言葉にはなっているが、「記録」や「資料」という言葉を添えるともっとわかりやすくなる。</p>
委員長	<p>8、9ページでは何かご意見はあるか。図としてはこの程度だとわかりやすい。前のページは入れすぎである。「5 運営のポイント」は8、9ページに記載されている。</p>
委員	<p>7ページに戻るが、プラットホームゾーンにたくさん点線の楕円があり、「このような使い方もできる」という活用例だそうだが、これは必要か。</p>
委員	<p>プラットホームの部分はがらんとして「これからここで何かしてほしい」という想像を高めるようなイメージの方が良い。先ほど言ったように、「このような風に使いなさい」という感じになり、普通の場所になる印象を受ける。</p>
委員長	<p>イメージーションを高めるような記述の仕方が必要である。</p>
委員	<p>イベントの風景と、全く何も無いがらんとしているプラットホームの写真を並べても良い。これだけの大空間があり、それがイベントではこのように使えるというイメージがあっても良い。</p>
委員	<p>一度整理をする。現状の空間を見せて、ここから何かできるというイメージを提供したいと思う。</p>
委員長	<p>8ページ「(1) 運営に携わる者の資質」で、踏み込んだ書き方をしているが大丈夫か。</p>
委員	<p>整理ができていないという印象がある。資料1-2の「武蔵野市エコプラザ(仮称) 検討市民会議検討のまとめ(案)」を見てももう少し詳しい内容が記載されている。17ページ「ア 運営形態」という大きな括りの中に、「(1) 管理運営業務の全体像」と「(2) 運営者」、という区分けをしておき、次の項目として「イ マネジメント」があり、その中に「(1) 運営者の資質」が記載されている。「マネジメント」と「運営者の資質」という言葉の使い分けをしているにも関わらず、資料1-1の8ページでは「エコプラザ(仮称) 運営のポイント」という言葉になり、資質の部分のみが取り上げられるものとなっている。</p> <p>また、資料1-2の18ページで、運営者としての市の特徴として、「市の方針を反映できる」と「学校など市の事業と連携しやすい」とあるが、これだけではないと思う。</p> <p>資料1-1と資料1-2とで、まとめ方にずれがあるように思える。資料1-1ではエコプラザの運営のポイントとして「お互いに顔が見える関係の構築」などが記載されているが、資料1-2ではもっと詳しく記載している。この部分はいろいろと議論をしたので、もう少し本編に落とし込んで良いのではないかな。</p>
委員	<p>本編は、あゆみ編18ページ「イ マネジメント」の部分の貼りつけただけであるため、まだ文章化しておらず、今いただいた指摘のとおりである。今回、</p>

	評価についての記述も入れるは良いことだと思うので、そこと運営の部分はエッセンスを入れた上で文章化し、本編として読めるような資料にしたい。
委員長	他にご意見はあるか。次にエコプラザの理念の構成について議論したい。
委員	「SDGs」を「評価」に移動すると良いと思う。「基本的な方向性」か、ゼロウェイストなどの「基礎にある考え方」が上位になるのかは検討が必要だと思う。 「環境」という言葉が入っていないことが気になっている。
副委員長	こういった概念は、ピラミッドのように下から積みあがっていき、何かの頂点を目指すような階層構造ではない。SDGsもある意味行政そのものの目標であり、17のゴールを達成する手段である。エコプラザはそのうちの一部分なので、全体構成というよりはそのうちの一部分ではないか。
委員長	環境という言葉が一つもない。環境をトピックとして「共創によって未来をつくる」という流れがないとわからない。
副委員長	要素はこれだけではなく他にもあり、本来は要素が積み上がって一つの目標になるのではない。目標から外側へ飛び散り、それぞれが関係を持っているというイメージである。
委員長	円状にしてはどうか。
副委員長	大事なものが中心にあり、その他の要素を衛星のよう周りに配置してはどうか。ただ、他にも取り入れる概念なども出てくるので、このようなものを図示化するのは難しい。
委員	木の絵のようにしてはどうか。土台となる土の部分に「基礎にある考え方」の内容を入れ込み、幹の部分に「みんなでつくりよう！子どもたちに未来をつなぐエコプラザ」を入れる。果実部分が「低炭素モデルの実現」や「まちづくりの連携」などの「基本的な方向性」の部分となるというイメージがある。
委員	まだ成長しきっていない木の方が良い。
委員	「基礎にある考え方」が根っこにあるのは良い考え方である。
委員	実の部分はどんどん増えても良いイメージである。
委員	それ全体が目標となるようなイメージか。
委員	目標をビジュアルで出したい。円状にするとどこを目指していくという方向性がわからない。
委員	時間をかけて大きくなっていくということがわかる。
委員	方向性がエコプラザに通じる。
委員	木がエコプラザに近いイメージがあった。
委員	果実部分にSDGsのロゴを添付してはどうか。
副委員長	モデルとしてはとても良い絵である。

委員	気がついた人が何かを加えても良いとも思う。
委員	良いと思う。木全体が目標というイメージになる。
委員	あまり木が成長してない、これから伸びるというイメージがあった方が良くはないか。わざと上部に空間を空けることで、「なぜ空間が空いているのか？」という疑問や関心も生じる。
委員	今回は内容を皆様に確認していただき、カタカナ用語が多いなど、多くのご意見をいただいた。後日委員長、副委員長と相談の上、仕上げたい。
委員	資料1-1の5ページで、国が地球温暖化対策計画に掲げる「温室効果ガス排出量を2030年度において、2013年度比26%減」を目指し、武蔵野市が低炭素モデル地域となるようにするという記述がある。京都市や横浜市などの低炭素モデル地域は今、2050年までに二酸化炭素の排出量実質0を目指していることもあるため、「パリ協定の目標に向けて武蔵野市が低炭素モデルを目指す」としてはどうか。
委員	国の計画に関する記述はいらぬのではないかと。私も委員と同意見である。武蔵野市の低炭素モデルについてずっと議論し、重きを置いているので、むしろこの場だけではなく、市全体として取り組む必要がある。
委員長	「26%減の水準にすることを積極的に目指し」などとしてはどうか。「環境にやさしい行動」は、やさしいではなく、皆が行動に結びつくように動く、などの言葉の方が良い。
委員	具体的な案としては、「平均気温上昇を1.5度に抑える努力を迫る」、などとしてはどうか。国の目標を前提に進めるという文を削ると良い。
委員	国の目標に関する記述を入れるのであれば、「推進することに留まらず、さらに一層の」などの文言を加えるなどの心意気が必要である。
委員	これは委員会のまとめなので、それを踏まえて「市の考え方」にどう書くか。
委員	そこは今後で良い。気候変動は1年ごとに環境や状況が変わっているため、不自然にならないように市でまとめていただきたい。
委員	エコプラザについては、今の武蔵野の既定の構造自体を見直さないといけない。そうしたメッセージを含めて、高い目標を設定する必要がある。
副委員長	私も国の目標を入れなくても良いと思う。これを受けて市がどう考えるかは別問題である。
委員	武蔵野市で実質排出量ゼロを2050年までに目指せば良いのではないかと。
副委員長	市民会議の中で目指すと言うのは自由だと思う。
委員	評価の部分について、数値目標を入れないことに異議はない。できる目標を書いても意味はないが、行政が市民の方といろいろなことをやっていくためにいろいろと考えて実施していくのであれば、その理念や考えも、数値目標を達成したことで初めて正しいかどうかはわかると思う。

	この場でなくても良いが、最終的には市の方で数値目標を出すべきだと思う。
委員長	集客人数だけで評価をされてはいけないと考えている。
委員	総合的な評価でも良いと思うが、その評価がすべて文章になると思う。やっていること自体が文章だけの評価では意味のないものが多い。来館者数を入れるというわけではないが、何か数値目標があった方が良いのではないかな。
委員長	他の自治体の施設で委託事業者が管理しているところでは、だんだんと活動が不活発になってきているところもある。人数だけを集めて成果を評価するのは良くない。評価基準についてもみんなで作った方が良いというスタンスで、PDCAやソーシャルインパクトの手法を使うことという表記で良いのではないかな。
委員	検証という言葉が入っているので、検証をしようにも基準がなければ検証ができない。
委員	エコプラザを含めた周辺整備の中では、評価を行うにあたり基準を設けた方が良いということはずっと言っている。今後30年後、50年後の市民に対し、これだけ取り組んできたということをきちんと示すことが必要である。そこも配慮した上で、どのように評価をするか、どのような評価軸を用いるかをこれから意識したい。評価の基準は数字を入れるかどうかはともかく、今まで議論してきたような、エコプラザの理念に書かれている内容は評価の軸になるものなので、そこは文章内で例示した方が良い。SDGsを基準として提示しても良い。
委員	今回ソーシャルインパクトという手法は使えると思う。エコプラザで環境啓発を行うことでこれだけごみが減ったなど上手く展開して、定量的に数値化できると思う。今回の議論でご意見をいただいたので活用したい。
委員長	ポートフォリオという言葉がわからない方もいるが、学校教育で良く用いられる手法で、ファイルに今まで実施したことの記録をまとめ、個人の変容などをまとめられれば良い。
委員	この辺りは工夫をしたい。

2 武蔵野市エコプラザ（仮称）の整備に向けた市の基本的な考え方（案）の内容について

発言者	要旨
事務局	資料3は「武蔵野市エコプラザ（仮称）の整備に向けた市の基本的な考え方（案）」の項目と案をお示ししている。今回、エコプラザの理念など根本に関わる議論もされたので、それを受けて修正する。市の基本的な考え方（案）では、最初の「Ⅰ 本市における環境の歴史」の部分を加えたことが大きな変更点である。それ以外では、例えば「Ⅲ 基本理念」の「1 環境啓発施設の必要性」の「地球温暖化による深刻な影響」の下に、「環境や自然の大切さを知る機会の

	<p>減少」や「安全・安心なごみ処理に向けて」という項目を入れて、ごみの視点も含めるようにしている。</p> <p>皆様に本日いただいたご意見を受けて、市がこれからどのような他の事業と連携するかなどを書き加える形となる。運営の部分に関しても、委員からご指摘いただいた部分が資料3でも漏れているので、マネジメントの部分や運営のありかたについてはきちんと書き加えたい。</p> <p>こちらは市の考え方になるので、皆様の検討のまとめを受けてつくらせていただく。根幹の部分を変えることはないが、多少の微修正は行うので、その点ご了承ください。</p>
--	---

3 その他

発言者	要旨
事務局	<p>資料4の「武蔵野市エコプラザ（仮称）に関するアンケート調査結果」については、前回お配りした速報値の部分以外が資料に掲載されている。発送数 53のうち回答数は38団体、回答率は72%となっている。2ページに団体の活動歴が出ており、長く活動されている方が多いことがわかる。7ページにエコプラザ（仮称）の認知度について記載されており、「エコプラザ（仮称）の整備・検討を進めていることを知っているか」という設問については、「知っている」という回答が過半数を超えている一方、下のグラフを見ると「話題になったことがない」が半数近い回答となっている。10ページは前回速報値で出した数値をグラフ化したものである。期待度を5段階で評価しており、期待度が高い項目ほど突出して見えるグラフとなっている。一般の市民と似た傾向となり、「学べる」や「体験できる」への期待が中心となっている。12ページの「エコプラザ（仮称）でできるとよいと思うこと」の自由記述では、様々な意見をいただき、良いサンプルとなった。こちらも資料として付けた形で公表したい。</p> <p>検討のまとめに関わる会議については、今回で最後とさせていただきます。パブリックコメントの募集は10月9日までを予定している。パブリックコメントがまとまり、修正案などをお示しできる段階で次の会議を開催できるようにしたい。日程調整は後ほど事務局から連絡する。</p>
委員長	<p>基本的にはパブリックコメント実施前の原案は、副委員長と私の方でチェックするという方向になる。委員の皆様にも原案などは送られるのか。</p>
委員	<p>送付する予定である。</p>
委員長	<p>ご意見がある場合は私宛か、事務局経由でも結構なので寄せていただきたい。</p>
委員	<p>パブリックコメントは委員が出しても良いものか。この場で言い足りなかったことなどを出したい。</p>
委員	<p>検討のまとめのパブリックコメントではなく、市の考え方のパブリックコメ</p>

	ントなので、一市民の意見として出してもかまわない。
副委員長	今回委員長、副委員長に一任されたが、完璧な答えを出すような、答申案をつくる場ではない。検討し、いろいろな意見が出て、それをまとめるような場なので、法律体系を完璧につくる作業をしているわけではない。それを受けて、市がどういう実施方針を立て、委託事業者や直営で運営するかなどを決めて、数値目標に限らない具体的な目標を立てて運営を行う。その時の考え方を提示している場であるため、場合によっては矛盾をした意見なども出てくる。そうした意味では完璧性を期待しない方が良い。とにかく皆様の意見がここに反映されている。
委員長	述べた意見全てが反映されているわけではない。だがおおよそ集約されており、それを受けた市の考え方にパブリックコメントとして意見を求めるものである。
副委員長	これに沿って整備をするという条件ではない。その部分は確認していただきたい。
委員長	クリーンセンターを建てた時とはまた別の考え方である。 夏休みも終わるが、体調を壊さないようにしていただきたい。